

# 北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通

管 野 弘 -

昭和44年以降、道林産課で実施している道内のカラマツ素材及び製材流通調査の昭和51年度分（51年4月～52年3月）について、その要点を紹介します。

なお、51年度から調査要領を一部変更していることもあり、今迄の報告と若干異なる部分もありますが、大筋は50年度と同じ項目でまとめてあります。また50年度と同じく参考までに、最近5カ年間のカラマツ素材及び製材の価格推移を木材市況月報（道林産課調べ）などにより添付しました。

## 1. カラマツ素材

### 1.1 カラマツ素材生産量

この1カ年間に、多少にかかわらずカラマツ素材を生産した道内の全生産者（626カ所）からの回答により、51年度中に生産されたカラマツ素材の林野別数量及び支庁別数量を第1表、第2表に夫々示した。

総生産量は457.021m<sup>3</sup>と44年以降最高を示し、前年比113%と50年度とほぼ同じ増加率を示している。

林野別では、個人有林の20%増が全体生産量の増になっており、他はほぼ昨年並か若干減になっている。

支庁別生産量では、網走、十勝、空知、後志、釧路が生産増になっているが、特に網走は50、51年度と伸びが著しく、十勝を上廻って一位になっている。一方主要生産地の一つである上川は8%減で推移的にみて

第1表 林野別カラマツ素材生産量 単位：m<sup>3</sup>

入 手 林 野 別	年 度				51年度の内訳	
	48	49	50	51	自 分 で 自 生	下 請 に 出 産 して 生産
国有林(営板局)	13,774	17,187	34,473	32,527	17,268	15,259
その他国有林	2,425	2,582	2,164	5,263	2,007	3,256
道 有 林	20,151	21,074	22,180	20,560	16,149	4,411
市 町 村 有 林	21,818	21,730	35,237	29,258	21,195	8,063
会 社 有 林	25,624	30,469	23,469	25,728	13,248	12,480
個 人 有 林	337,183	260,804	285,663	342,401	222,545	119,856
そ の 他	447	1,834	1,667	1,284	1,284	0
合 計	421,422	355,684	404,853	457,021	293,696	163,325

第2表 支庁別カラマツ素材生産量及び生産業者数  
素材生産量 単位：m<sup>3</sup>

支 庁 別	区 分	48年度	49年度	50年度	51 年 度	
		生産量	生産量	生産量	生産量	業者数*
渡 島	島	11,780	6,663	8,643	9,851	15
檜 山	山	2,870	4,163	2,905	5,174	16
後 志	志	23,650	9,943	20,414	26,177	18
胆 振	振	29,490	24,255	17,232	18,385	12
日 高	高	6,500	3,505	2,215	4,131	9
石 狩	狩	3,880	3,743	1,978	4,776	7
空 知	知	20,250	11,812	25,355	32,972	28
上 川	川	52,000	31,156	51,383	45,879	36
留 萌	萌	2,270	1,624	1,808	1,854	2
宗 谷	谷	2,650	1,792	278	486	2
網 走	走	83,080	69,576	106,799	135,230	51
十 勝	勝	153,400	160,698	122,250	130,003	65
釧 路	路	12,590	10,734	16,711	23,048	22
根 室	室	17,010	16,020	26,882	19,055	14
合 計		421,420	355,684	404,853	457,021	297

\* カラマツ素材、年間100m<sup>3</sup>以上生産した業者数

第3表 カラマツ素材の径級別割合

径 級 (cm)	年 度				
	48	49	50	51	
7	7	16.7	16.5	21.8	18.6
8	13	34.5	37.8	39.8	41.5
14	18	35.0	33.3	28.4	30.0
20	28	12.7	11.4	9.2	8.5
30	~	1.1	1.0	0.8	1.4
合 計		100.0	100.0	100.0	100.0

減少の傾向にあるが、依然、十勝、網走、上川の3支庁で68%と大半を占めている。

### 1.2 素材の径級構成

径級別生産量の割合を第3表に示した。全体的にみて、13cm以下の小径材の生産比率が高くなる傾向にあるが、8～18cmが72%とほぼ一定している。

### 1.3 素材の用途別・販売先別・地域別出荷量

第4表に示したとおり、用途別では製材用が34% 40%と若干増加した。一方、杭、足

第4表 素材の用途別・販売先・地域別出荷量 単位：m<sup>3</sup>

用途別		製材	坑木	杭・足場丸	パルプチップ	その他	合計	
出荷別	48年度	213,378	59,378	37,092	89,463	19,750	419,480	
	49年度	128,282	72,715	28,028	105,790	18,235	353,050	
	50年度	132,345	111,274	20,426	99,410	26,360	389,815	
	51年度	176,576	122,163	10,914	103,461	27,227	440,341	
構成比率(%)	48年度	50.6	14.3	8.8	21.3	4.7	100.0	
	49年度	36.3	20.6	7.9	30.0	5.2	100.0	
	50年度	34.0	28.5	5.2	25.5	6.8	100.0	
	51年度	40.0	27.8	2.5	23.5	6.2	100.0	
51年度の 内訳	販売先別	自家使用	2,374	40	22,033	748	127,694	
		直販	50,731	66,738	6,496	41,118	12,375	177,458
		商社集荷	15,306	40,374	2,302	22,524	6,046	86,570
		道森連	8,040	12,677	2,076	17,786	8,040	48,619
	出荷地域別	支庁	164,430	29,922	4,779	68,142	11,694	278,967
		他支庁	11,876	89,575	5,773	34,919	14,780	156,923
		道内合計	176,306	119,497	10,552	103,061	26,474	435,890
		東京	200	930			10	1,140
		北浜	70	1,736	362		657	2,825
		中京・静岡					86	86
	阪神その他				400		400	
	道外合計	270	2,666	362	400	754	4,451	

えている。

製材設備出力階層別の工場数は、第5表に示すとおりで、小規模階層ほど工場数比率の高いことは変わっていないが、51年度は7.5～22.5KWの工場の92%がカラマツを挽き立てている。

## 2.2 製材用カラマツ素材の径級構成

製材用原木の径級別割合を第6表に示した。前年度の傾向と異なり、径級14～18cmが35% 39%と増加し8～13cmが43% 34%と減少しほぼ49年度以前に近い割合を示している。

場丸太が2.5%と減少の一途になっている。坑木用、パルプチップ用はほぼ横ばいである。

販売先別数量は、自家用消費が25% 29%、道森連扱いが8% 11%と増え、特に自家用消費が50年度に続き増加している。一方、直販が46% 40%と割合、数量共に減少している。

地域別では、道内消費が99%で1%の道外移出は数量的には前年度より66%増になっている。

第6表 製材用カラマツ素材の径級割合 単位：%

径級	年度			
	48	49	50	51
～ 7	5.5	6.2	9.7	8.4
8 ～ 13	31.7	32.8	42.6	33.7
14 ～ 18	43.9	43.4	34.5	39.3
20 ～ 28	17.5	16.0	11.9	16.5
30 ～	1.4	1.6	1.4	2.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

## 2. カラマツ製材

### 2.1 カラマツ製材工場数

道内製材工場数は若干減少して、昭和52年3月末で889工場になっている。一方、カラマツ材を多少なりとも挽材した工場数は172工場で前年度より18工場増

第5表 カラマツ挽き立工場の出力階層別工場数

製材設備出力(KW)	製材工場総数(A)	カラマツ挽立工場数(B)	同の左比率B/A(%)
7.5 ～ 22.5	25	23	92.0
22.5 ～ 37.5	80	36	45.0
37.5 ～ 75.0	297	58	19.5
75.0 ～	487	55	11.3
合計	889	172	19.3

### 2.3 カラマツ挽き立工場の生産規模及び工場数

カラマツ製材生産規模別工場数及び生産量を第7表に示した。工場数ではカラマツ製材生産量500m<sup>3</sup>/年間以下の小規模階層が65% 68%、3,000m<sup>3</sup>/年間以上が4% 8%と夫々増加し、中間の500～3,000m<sup>3</sup>/年間が31% 24%と減っている。一方500m<sup>3</sup>/年間以下の工場での生産比率は13% 14%、500～3,000m<sup>3</sup>/年間が50% 39%、3,000m<sup>3</sup>/年間以上が28% 48%となっており、3,000m<sup>3</sup>/年間以上の14工場で全道カラマツ製材生産量の約半数を占めている。

### 2.4 カラマツ製材の生産量及び出荷量

全道のカラマツ原木消費量、製材生産量及び製材出荷量の推移を第8表に示した。

第7表 カラマツ製材生産規模別工場数及び生産量

生産規模 (カラマツ製材m <sup>3</sup> /年間)	～100	100～ 500	500～ 1,000	1,000～ 3,000	3,000～ 5,000	5,000～	合計
カラマツ挽き立工場数	45	72	16	25	9	5	172
同上構成比率 (%)	26.2	41.9	9.3	14.5	5.2	2.9	100.0
カラマツ製材生産量計 (m <sup>3</sup> )	2,038	17,918	11,733	43,838	33,565	34,807	143,899
同上構成比率 (%)	1.4	12.4	8.2	30.5	23.3	24.2	100.0

カラマツ挽き立工場が記録された。

カラマツ素材の生産では網走が十勝の生産を上回ったが、挽き立量でも十勝が32% 33%と1%増なのに

対し、網走は23% 30%と増加率が大い。またこれを工場当りで見ると、十勝は2,242m<sup>3</sup>、網走が2,538m<sup>3</sup>と両支庁共比較的大型のカラマツ挽き立工場が多いことを示している。渡島は挽き立工場数が30工場と十勝に比適するが挽き立量は1工場当り272m<sup>3</sup>と少ない。渡島にかぎらず、檜山、後志、胆振など道南地域では小規模の工場がカラマツ材挽き立量が少ない工場が多いといえる。

製材出荷量は道外出荷量が59% 62%と増加している。特に十勝、網走共に80%と道外移出の比率は高く、両支庁で道外移出の81%を占めている。

2.6 カラマツ製材の出荷量

カラマツ製材品の用途別、販売先別、地域別出荷量は、第10表に示した。

51年度の調査から、建築用、土木用とも構造材、仮設材の区分がなくなったので、過去の分も建築用、土木用として合わせて表に記載した。

用途別出荷量では、年々減少傾向にあった建築用材が前年27% 19%と大きく減少したのが目立つ。他ではダンネージが13% 17%、梱包材が28% 31%と若干の増だが、数量比で見るとダンネージは167%、梱包材は147%と増加している。あとはほぼ横ばいである。

販売先別出荷量の比率では、自家使用が前年6% 4%、直接販売が34% 29%と減少し、商社・集荷業が48% 49%、道森連が12% 19%とそれぞれ増加している。特に道森連扱いが数量比では前年の2倍になっている。

出荷地域別では、道外出荷が56% 62%と増加し、その移出先別では92%が京浜地方で占められている。

第8表 カラマツ原木消費量、製材生産量及び製材出荷量

単位：m<sup>3</sup>

年度	原木消費量	製材生産量	製材出荷量	道内出荷量	道外出荷量
48	197,843 (2,603)	137,067 (1,806)	135,299 (1,804)	57,665 (1,186)	77,634 (618)
49	149,555 (7,566)	103,188 (5,346)	102,684 (4,855)	42,253 (1,879)	60,431 (2,976)
50	159,466 (10,287)	110,038 (6,623)	110,301 (6,481)	48,858 (4,827)	61,443 (1,654)
51	203,559 (5,844)	143,899 (3,882)	144,840	55,029	89,811

( )はソ連産カラマツで内数

年々増加してきたソ連産カラマツは消費・生産とも6.4% 2.8%と減少している。なおソ連産カラマツの出荷量は51年度の調査項目からはずれている。

2.5 支庁別カラマツ製材工場数及び生産量

支庁別のカラマツ挽き立工場数、原木消費量、製材生産量及び製材出荷量を第9表に示した。

支庁別工場数では、渡島、檜山、胆振、上川、石狩、網走が増え、今まで挽き立工場がなかった日高にソ連産カラマツを挽き立てた工場があり、はじめてカ

第9表 支庁別カラマツ挽き立工場数及び原木消費量、製材生産量、出荷量

支庁別	製材工場数	カ挽立工場数	カラマツ挽き立工場					
			原木消費量 (m <sup>3</sup> )		製材生産量 (m <sup>3</sup> )		製品出荷量 (m <sup>3</sup> )	
			道産材	ソ連材	道産材	ソ連材	道内	道外
渡島	71	30	8,165	715	5,764	492	5,763	487
檜山	22	16	2,736	0	2,090	0	2,090	0
後志	40	13	12,220	0	8,880	0	6,483	2,510
胆振	46	13	6,720	0	4,649	0	4,306	270
日高	48	1	0	66	0	44	44	0
石狩	50	7	4,837	11	2,786	7	2,793	0
空知	62	6	5,824	0	3,648	0	1,588	2,060
上川	138	12	9,599	702	6,417	493	4,614	2,258
留萌	24	4	42	618	29	410	439	0
宗谷	20	5	0	2,794	0	1,842	1,707	135
網走	159	23	58,367	0	43,440	0	8,378	34,391
十勝	118	31	69,517	256	47,924	159	9,518	38,376
釧路	69	4	7,214	0	5,692	0	3,810	3,727
根室	22	7	12,474	682	8,698	435	3,496	5,597
合計	889	172	197,715	5,844	140,017	3,882	55,029	89,811

第10表 カラマツ製材品の用途、販売先別、地域別出荷量 単位：m<sup>3</sup>

用途別		出荷先別									
		建築用	土木用	梱包材	製材組板	ダネ	ドラム材	パレット材	その他	合計	
48	年度	40,687	19,612	38,979	5,639	11,789	4,124	8,758	5,711	135,299	
49	〃	28,874	11,315	25,058	6,690	16,407	1,626	11,075	12,639	102,684	
50	〃	30,095	14,620	30,730	4,638	14,874	2,106	9,721	3,517	110,301	
51	〃	27,849	18,729	45,291	4,885	24,828	3,245	12,340	7,673	144,840	
構成比率 (%)	48 年度	30.0	14.5	28.8	4.2	8.7	3.0	6.5	4.2	100.0	
	49 〃	28.1	11.0	24.4	5.5	16.0	1.6	10.8	2.6	100.0	
	50 〃	27.2	13.3	27.9	4.2	13.5	1.9	8.8	3.2	100.0	
	51 〃	19.2	12.9	31.3	3.4	17.2	2.2	8.5	5.3	100.0	
51年度の内訳	販売先別	自家使用	5,080	180			11		6	140	5,617
		直販	18,184	7,350	5,135	1,289	1,622	403	4,660	2,733	41,376
		商社集荷	2,716	6,382	32,118	3,529	15,824	2,842	6,338	1,228	70,977
		道森荷連	1,769	4,817	8,038	67	7,371		1,336	3,572	26,970
	出荷地域別	自支庁	21,809	6,542	822	1,300	1,191		5,061	2,263	38,988
		他支庁	4,398	2,325	657	1,323	475	10	1,718	5,135	16,041
		道内合計	26,207	8,867	1,479	2,623	1,666	10	6,779	7,398	55,029
		北海道	135	1,512	1,220				101		2,968
		東北	1,449	7,939	40,617	1,902	21,615	3,195	5,460	275	82,452
		関東	1	411	1,947	360	933	40			3,692
		中部	57		28		614				699
		道外合計	1,642	9,862	43,812	2,262	23,162	3,235	5,561	275	89,811

道内消費では建築用材が48%と約半分を占めていることは前年と変りがない。

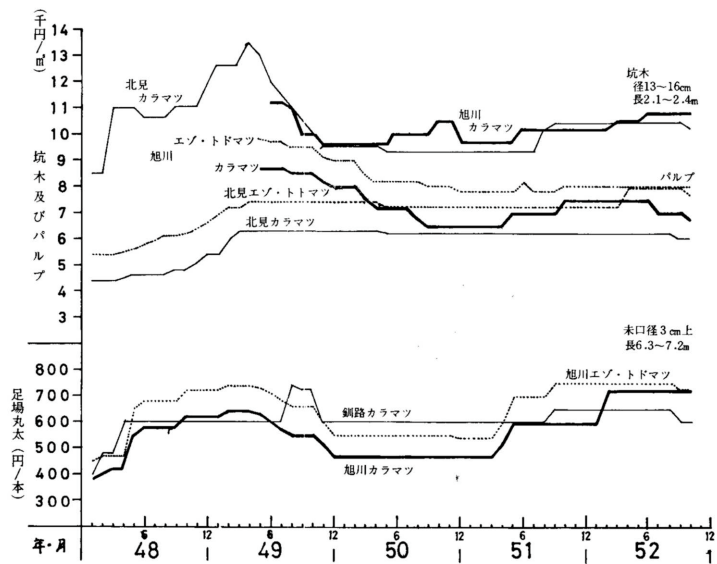
### 3. 生産業者のカラマツ材に対する意向

前年までカラマツ素材、製材とも、生産・流通・販売などに関する設問をしてアンケート調査を行っていたが、51年度は設問を行わず要望、問題点など自由な記入方法をとっている。それらを要約すると次のようなことになる。

#### 3.1 カラマツ素材について

イ 伐採単位が小さい  
ロ 価格が安い（製材用としての小径材）  
ハ 労務者が少なく労賃が高い（伐採の機械化力がない）  
ニ 取引単位が小さく買手市場  
ホ パルプ材の多い地方及び16、17年生の間伐費が高かつき立木代金が出ない。などである。これらの問題点は若干表現に違い

はあるが44年の調査時点からほとんど変わっていない。また要望として「パルプ材の価格安定をはかり、買溜などがおこなない需給の体制を確立すると共に一般材の利用開発を進めること」などがある。



第10図 特殊材(丸太)の価格推移

### 3.2 カラマツ製材について

イ 小径材が多く歩止りが悪い。ロ 副材(端材)の販路がなく、従って主材が高くつき販売が困難。ハ 素材入手が径級込みのため、小径材の処理が困難。ニ 道産カラマツ材は狂いが多いため、建築業界の利用が少ない。ホ 梱包材、仕組板、パレット材などの荷造費用が高い。など素材と異り割合い具体的な問題提起になっている。要望としては「建築、家具、建具用材として使用可能にするため脱脂及びぬれ防止などの研究開発を早急に望む」「官公庁発注の工事仕様書にカラマツ製材を入れてほしい」などである。

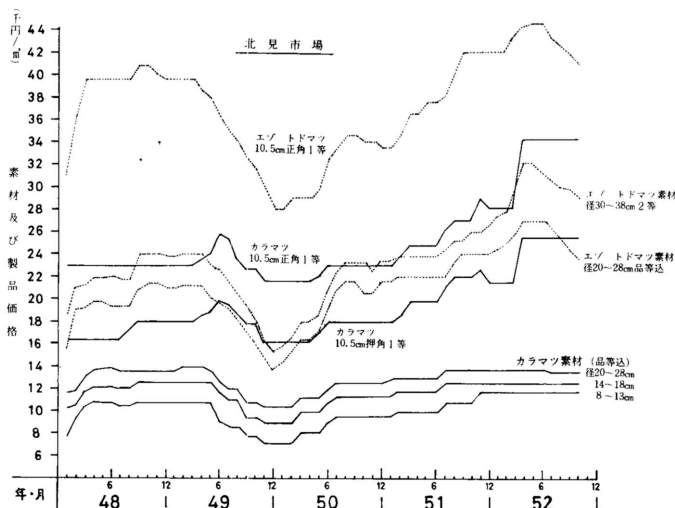
### 4. カラマツ素材及び製材の価格

「丸太のまま利用」する坑木、パルプチップ用材、足場丸太などの特殊材価格の最近5か年の推移を第1図に示した。また、素材及び製材の生産地的な北見市場と素材の消費地、製材の生産地的な旭川市場における、製材用素材及び製材品の価格推移を、夫々第2図と第3図に示した。エゾ、トド素材、製材及びカラマツ製材は49年後半から50年前半の低値から徐々に回復し、52年半ばに最高値を記録している。以降全般的な景気の停滞もあり建築需要期にもかかわらず下降線をたどっている。

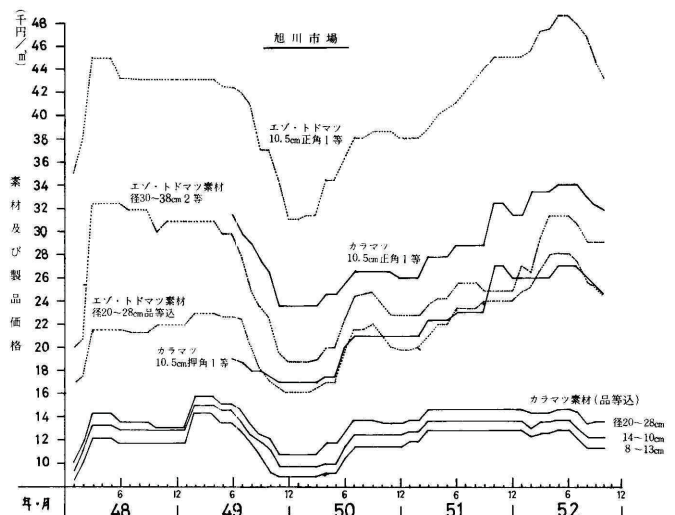
一方カラマツ素材は変動の幅は小さいが、高値を記録するまでにはなっていないが、52年半ばからエゾ、トドなどと同様下降をたどっている。

### 文献

1) 道林務林産課：カラマツ製材について(45年度分)木材の研究と普及、1972年6月号



第2図 北見市場における針葉樹素材、製材の価格推移



第3図 旭川市場における針葉樹素材、製材の価格推移

- 2) 山崎徹夫：カラマツの利用実態(46年度分)北方林業、1973年2月号
- 3) 管野弘一：カラマツの流通調査(47年度分)本誌、1973年10月号
- 4) 鎌田昭吉：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通調査(48年度分)本誌、1975年2月号
- 5) 本江満：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通(49年度分)本誌、1975年11月号
- 6) 鎌田昭吉：北海道におけるカラマツ素材及び製材の流通(50年度分)本誌、1976年12月号
- 7) 林務林産課：木材市況調査月報、昭和48年～52年